

- 21 しかし、もしあなたが降伏するのを拒むなら、これが、【主】が私に示されたことばです。
- 22 『見よ。ユダの王の家に残された女たちはみな、バビロンの王の首長たちのところに引き出される。聞け。彼女たちは言う。
あなたの親しい友たちが、あなたをそそのかして、押し切った。
あなたの足が泥に沈むと、彼らは背を向けた。』
- 23 あなたの妻たちや子どもたちはみな、カルデア人のところに引き出され、あなた自身も彼らの手から逃れることができず、バビロンの王の手に捕らえられ、この都も火で焼かれる。』
- 24 ゼデキヤはエレミヤに言った。「だれにも、これらのことを知らせてはならない。そうすれば、あなたは死なない。」
- 25 もし、あの首長たちが、私があなたと話したことを聞いてあなたのところに来て、『さあ、何を王と話したのか、教える。隠すな。あなたを殺しはしない。王はあなたに何を話したのか』と言っても、
- 26 あなたは彼らに、『王がヨナタンの家に私を返し、そこで私が死ぬことのないようにと、王の前に嘆願をしていた』と言いなさい。』
- 27 首長たちがみなエレミヤのところに来て、彼に尋ねたとき、彼は、王が命じたことばのとおり、彼らに告げたので、彼らは彼と話すのをやめた。あのことは、だれにも聞かれていなかったのである。
- 28 エレミヤは、エルサレムが攻め取られる日まで、監視の庭にとどまっていた。エルサレムが攻め取られた次第は次のとおりである。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「エレミヤ3度目の召し」

|エレミヤ書講解-75 エレミヤ書38:14~28 他 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 38章】

- 14 ゼデキヤ王は人を送って、預言者エレミヤを自分のところ、【主】の宮の第三の入り口に召し寄せた。王がエレミヤに、「私はあなたに一言尋ねる。私に何も隠してはならない」と言うと、
- 15 エレミヤはゼデキヤに言った。「もし私があなたに告げれば、あなたは必ず私を殺すのでは
ありませんか。私があなたに忠告しても、あなたは私の言うことを聞かないでしょう。」
- 16 そこでゼデキヤ王は、ひそかにエレミヤに誓った。「私たちの、このいのちを造られた
【主】は生きておられる。私は決してあなたを殺さない。また、あなたのいのちを狙うあの者
たちの手に、あなたを渡すことも絶対にしない。」
- 17 すると、エレミヤはゼデキヤに言った。「イスラエルの神、万軍の神、【主】はこう言われる。
『もし、あなたがバビロンの王の首長たちに降伏するなら、あなたのたましいは生きながらえ、
この都も火で焼かれず、あなたもあなたの家も生きながらえる。』
- 18 あなたがバビロンの王の首長たちに降伏しないなら、この都はカルデア人の手に渡され、
火で焼かれ、あなた自身も彼らの手から逃れることができない。』
- 19 しかし、ゼデキヤ王はエレミヤに言った。「私は、カルデア人に投降したユダヤ人たちの
ことを恐れている。カルデア人が私を彼らの手に渡し、彼らが私をなぶりものにするのでは
ないか、と。」
- 20 エレミヤは言った。「カルデア人はあなたを渡しません。どうか、【主】の御声に、私が
あなたに語っていることに聞き従ってください。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたの
たましいは生きながらえます。」

(4ページへ続く)

◆はじめに ～神のことばの実践は、生きた信仰の証である。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神のことばを蓄え、実践する者へ

*このメッセージは、神のことばを信頼し、従う姿勢を学ぶものである。

I 神のことばを求めるゼデキヤ (14～16節)

1. エレミヤ3度目の召し

(1) エレミヤは「第三の入り口」に召し出された。

*エレミヤは王の使者から召し出された。

*聖書の他の箇所にはない。恐らく王宮から直接神殿に入ることができる、私的な門ではないか。

(2) すでに神の託宣を何度も聞きながら、なおも神の一言を求める。

①「すべてを語れ」という要求

②エレミヤの応答～二つの不安

a. エレミヤの返答：語る内容に怒り、殺されるのではないか。

b. どうせ忠告しても、言う事を聞かないだろう。

③不安の根拠：ゼデキヤ王の決断力・識別力の無さ

a. エレミヤが召されるのは、これで3度目。エレ21：1～2、37：17

b. エレ32：1～5の啓示…全能の神による反抗の預言を聞いている。

④ゼデキヤ王は絶対に殺さないと誓い、エレミヤは語り始める。

a. いのちを造られた【主】(ヤハウエ)に誓う。

*【主】ヤハウエは、イスラエルに対する契約の神の御名である。

b. 聖書知識に基づき首長たちを制するのに、肝心な決断ができない弱さ



II 二つの道を問うエレミヤ (17～18節)

1. 決断を迫ることばの権威

(1) イスラエルの神、万軍の神、【主】のことば

①「いのちを造られた【主】」というゼデキヤ王の誓いを受けて

②これからの迫る決断は、いのちにかかわるものである。

*いのちを助けるのも、また滅ぼすのも、いのちを司る神の権威である。

*判断基準はイスラエルと結ばれた契約(律法)によってさばく。

*全能を有し、主権を持たれるの力を侮ることは、許されない。

2. 二つの道

(1) ゼデキヤ王に対し、エレミヤは「二つの道」を提示する。6：16-22

①「二つの『道』の内、どちらかを選べ」と決断を迫る。

*「道」という言葉は、その歩みを表して、エレミヤ書でも何度も用いられる。

②選択肢は二つに一つであり、その真ん中(折衷案)はない。

(2) 神に従う道：バビロンの首長たちに降伏する選択。

①この道を選ぶなら、ゼデキヤ王も家族も、そしてこの町も助かる。

②預言者を迫害し、偶像に浸り、律法を破った南王国ユダへの神のくびき

(3) 神に反抗する道：バビロンの首長たちに降伏しない選択。

①この場合、町は焼かれ、ゼデキヤ王も殺される。

②神の御心を見誤った者には、一見まっとうに見える選び。

*因みに、32章で示されたバビロン捕囚に至る預言はこちらに当てはまる。

*たとえ聞かないとしても、信じて、ことばに忠実に語ることが預言者の責務である。

III 仕返しへの恐れと守り (19～28節)

1. ゼデキヤ王の恐れとその反論

(1) すでにバビロンに降伏したユダヤ人たちの仕返しへのリンチである。

①ゼデキヤ王の抵抗が、自分たちの不利益を生むと思っていることの恐れ

②エレミヤは、カルデヤ人は王を渡さないと、説得する。

*反抗した場合のさばきも併せて、詳細に繰り返しの説得を試みる。

③これは、「いのちを造られた【主】」の守りである。

2. 敗北した王が味わう恥辱

(1) ゼデキヤの後宮(ハーレム)にいる女たちは、バビロンの首長によって弄ばれるだろう。これは敗北した王が経験する最大の屈辱である。1サム16：20-22

(2) そればかりか、その女たちがゼデキヤを嘲った歌を歌うようになるのである。

3. エレミヤの知恵

(1) ゼデキヤは、このことをユダの首長たちに話さないように命じる。

(2) 首長たちが尋ねて来た時、エレミヤは、自分はいのちを助けてくださいと懇願してただけだと説明する。

(3) エレミヤはここで嘘をついている訳ではない。彼の言ったことは当たっている。

①あえて言う必要のないことには触れなかった→こうして監視の庭に戻された。

*語るべきことと、沈黙すべきことを見分ける知恵を主からいただきたい。

◆まとめ：神のことばを蓄え、実践する者へ

(1) 誰を恐れて日々の決断をするのか

①イスラエルに求められること：心の包皮を切り捨てよ エレ4：4、申10：16

(2) 信仰を実践した言動。目に見える生きた信仰はヤコブ書のテーマ。

(3) エレミヤのことばと、アーモンドの花

①アーモンドの花は春の到来の先駆け。エレミヤは神のことばの成就の先駆け。

②私たちの日々の歩みもまた、神を証しし、その成就の先駆けとなるように。

*単なる知識から、自分のすべての判断を貫く価値基準(世界観)に